

藤沢市防災組織連絡協議会について ～ 報告 ～

藤沢市防災組織連絡協議会

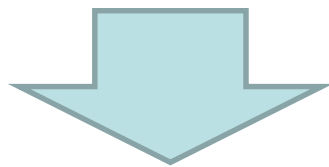
会 長 椎 野 幸 一

(御所見地区防災組織連絡協議会 会長)

藤沢市防災組織連絡協議会報告とお願い

— 目 的 —

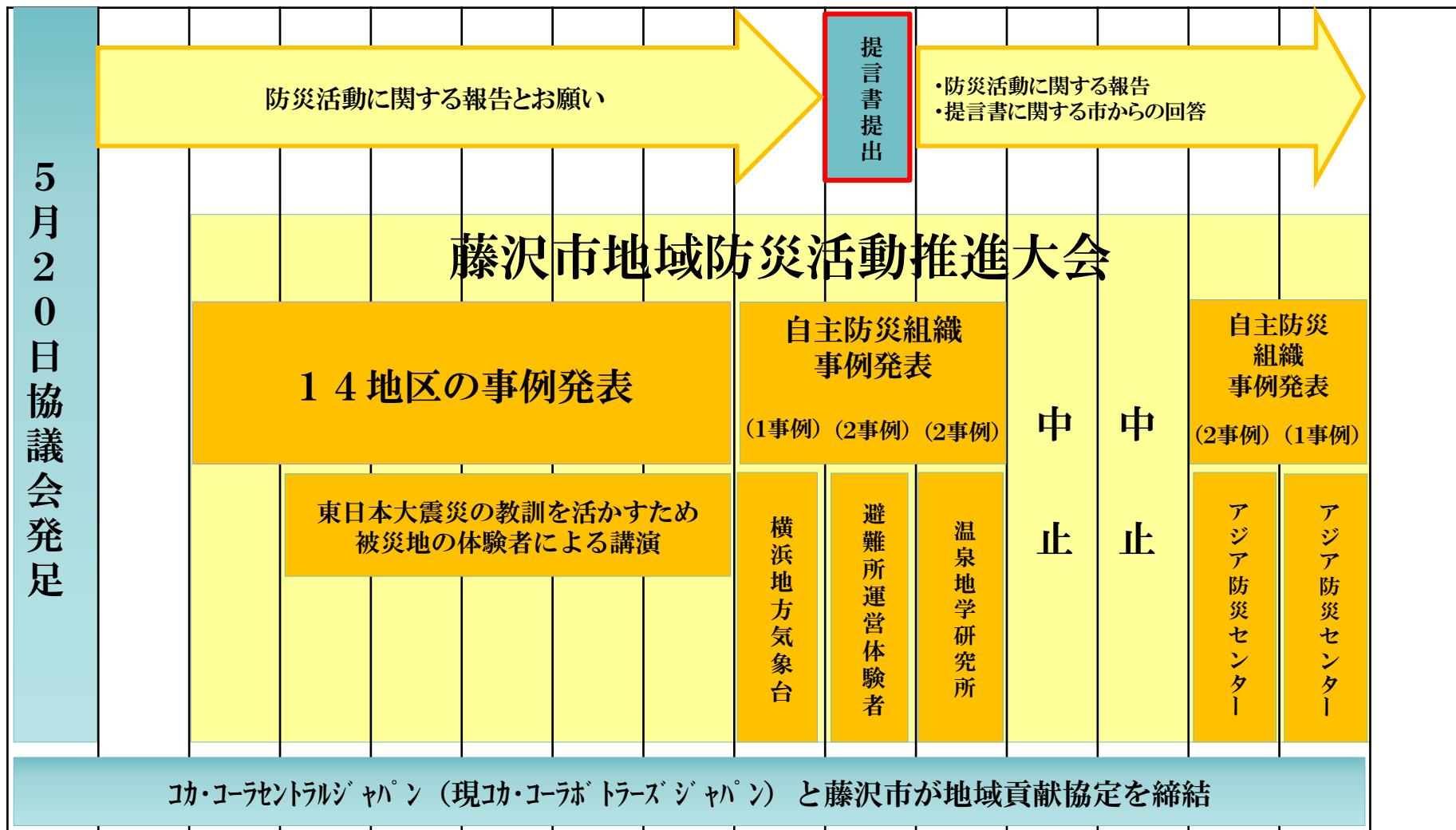
- (1) 防災意識の啓発に関すること
- (2) 各地区防災協議会の情報交換に関すること
- (3) 事業を通じて抽出された課題について検討を行い、藤沢市に提言すること
- (4) その他、本会の目的達成に必要と認めること



先進事例を各自主防災に活かす



1. 藤沢市防災組織連絡協議会の歩み



2. 藤沢市と連携した活動

▼自主防災活動の推進

- 地区総合防災訓練の実施
- 水防訓練、総合防災訓練等、市への協力

▼マニュアル等の活用推進

- ハザードマップ
- 地区防災マップ
- ふじさわ防災ナビ

▼津波避難訓練への参加

- 片瀬・鵜沼・辻堂地区の参加協力

▼危機管理課によるアンケート調査 (自主防災の実態)

- アンケート回収協力
- アンケートの活かし方の提言

▼避難行動要支援者対策

- 自治会・町内会へのアンケート実施
- 令和4年度計画の周知
- 実践活動の推進（5本の柱）

▼地域福祉計画の啓発活動（2026）

- 地域福祉計画委員会への参加
- 地域福祉計画実践活動推進

3. 自主防災活動における課題改善に向けた取り組み

2018年6月7日に防災組織連絡協議会
が、現状の問題・課題に対する内容をまとめ
鈴木市長に提言しました。

現在その内容を年度毎に活動実績をまとめ、
問題・課題の改善進捗状況を、総会時に確認
して、年度毎に継続した取組みを実施してい
ます。

柱1 自主防災活動の活性化

自主防災組織が取り組むこと

- ① 講話や懇談会の実施
- ② 講演会・事例発表会、推進大会等への参加者の積極的な呼びかけ
- ③ マンションの住民説明会等を利用した自治会加入促進
- ④ 自主防災組織と中学校が連携した、ジュニア防災リーダー教育の実施

令和4年度の活動結果

- ① 感染防止を図りながら一部縮小しつつ地区総合防災訓練を13地区が実施
- ② 啓発を目的に広報誌の発行、マニュアルの改訂、講演会を10地区が実施
- ③ 防災リーダー講習会及びジュニア防災リーダー講習会を6地区が実施

残された問題・課題

- ① 新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う、講話や懇談会の中止が多数
- ② 一人ひとりの防災意識の啓発機会の減少
- ③ 小規模の自治会・町内会の活動推進が課題



津波避難場所の設置(辻堂地区)

柱2 避難行動要支援者対策の充実

自主防災組織が取り組むこと

- ①名簿の管理方法・活用方法等ルール作り
- ②要支援者等の避難行動・避難誘導訓練等の実施
- ③先進事例の紹介
- ④安否確認訓練・アンケート調査を実施することによるPDCAサイクルの循環

令和4年度の活動結果

- ①要支援者(障がい者・高齢者)を含めた安否確認訓練を3地区が実施
- ②自治会・町内会、自主防災組織と民生委員児童委員との意見交換を2地区が実施
- ③声かけ、支援者によるお宅訪問を実施して、顔の見える環境づくりを実施

残された問題・課題

- ①新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う、訓練実施の中止が多数
- ②市内全地区における要支援者との顔の見える関係づくりの構築
- ③再度コロナ渦前の状況へ戻すことが課題



安否の確認訓練(御所見地区)

柱3 避難施設運営の確立

自主防災組織が取り組むこと

- ①地区防災拠点本部と連携した開設訓練・運営訓練の実施
- ②訓練結果を踏まえた各施設に則したマニュアルの作成

令和4年度の活動結果

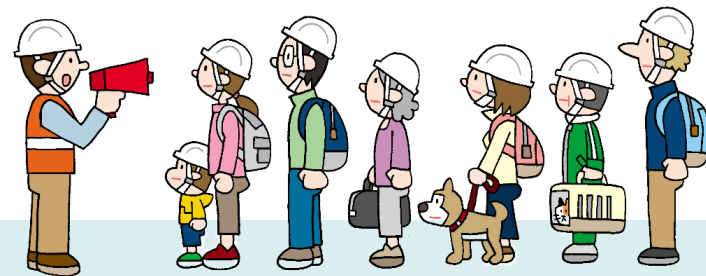
- ①新型コロナウイルス等の感染症対策を講じた訓練を9地区で実施
- ②感染症対策を講じた運営方法の検討を9地区で実施

残された問題・課題

- ①指定避難所81施設毎の運営方法の推進
- ②感染症対策を講じた運営方法の確立及び運営マニュアルの作成
- ③自治会・施設管理者・従事職員・センター職員四者による運営定着推進が課題



柱4 各地区防災拠点本部の役割



自主防災組織が取り組むこと

自主防災組織と地区防災拠点本部が連携した訓練の実施

令和4年度の活動結果

- ①自主防災組織と地区防災拠点本部が連携した訓練を5地区が実施
- ②感染防止を図りながら地区総合防災訓練を13地区が実施
- ③地区防災拠点本部会議への参加

残された問題・課題

- ①新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う、訓練実施の中止が多数
- ②訓練継続が途切れたことによる自主防災組織との関わりの希薄化
- ③再度コロナ渦前の状況へ戻すことが課題

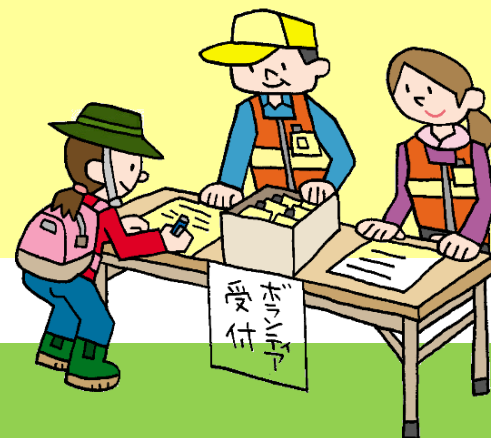
柱5 災害救援ボランティア受入体制の確立

自主防災組織が取り組むこと

- ①地区拠点本部及びボランティアコーディネーターと連携したサテライトセンターの開設・運営訓練の実施
- ②ボランティア受入訓練の実施

令和4年度の活動結果

FSV(藤沢災害救援ボランティアネットワーク)がボランティアコーディネーター養成講座を1地区で実施



残された問題・課題

- ①新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う、訓練実施の中止が多数
- ②各地区に設置されるサテライトセンターの役割認識
- ③再度コロナ渦前の状況へ戻すことが課題

4. 地域福祉計画の推進

基本目標

1 地域に関心を持ち、
行動できる人材づくり

2 お互いが見守り、支えあ
い、つながる地域づくり

3 誰もが安心して
暮らせるしくみづくり

自主防災が連携して取り組む関連施策

- ▼施策方向性＝災害時に備えた地域づくりの推進
- ▼施策の展開＝①地域における自主防災活動の活性化
②避難行動要支援者体制の強化
③災害時における救援ボランティアの受入体制の整備

- ▼実行した内容を置きかえる（地域福祉計画実績）
- ▼施策を意識して活動

令和5年の取り組み（案）

- ①要支援者一人ひとりに対する情報提供方法の工夫
- ②地区活動団体との連携強化
- ③自主防災組織との顔の見える関係づくり
- ④防災組織連絡協議会における情報交換の質の向上

まとめ

- ①防災活動は「生きる・助ける」が取り組みの基本です。
- ②「備え」は空振りでもいいから訓練を続けましょう。
- ③自主防災＝自治会の組織を強化して、



「防災もまちづくり」



を進めましょう。

終わりに

次年度に向かって

☆ 4 6 8 の自主防災活動を、向上心を持って取り組みましょう。

☆ 自然災害の教訓をいざと言う時の、備えに活かしましょう。

☆ 藤沢市の防災力を高めましょう。

首都直下型・南海トラフ・日本海溝・千島海溝対応

An aerial photograph of a coastal city, likely Yokohama, Japan. The city is densely packed with buildings and infrastructure, extending along a curved coastline. In the foreground, a large harbor area is visible with numerous piers and docks. The sea is a deep blue, and the sky is clear. In the far distance, the iconic snow-capped peak of Mount Fuji rises against a clear blue sky. The overall scene is bright and clear, suggesting a sunny day.

ご清聴ありがとうございました。